

13 自己点検・評価等に関する事項

本学は、私立大学としての自主性、自律性を重んじつつ、建学の精神に基づく個性豊かな特色ある教育研究活動等を展開し、有為の人間を育成するとともに、学術文化の向上や社会の発展に貢献することをめざしている。

その実現のために、教育・研究の向上を図り、自らの活動を点検・評価し、独自の方法で大学の質（教育研究の質）を自ら保証（内部質保証）することが必要であると考えます。

こうした認識の下、本学としては「機関（組織）としての自己点検・評価」と本学の教育研究等を支える「教員個人の諸活動に対する自己点検」という2つの視点から内部質保証システムを確立し、教育研究水準の維持・向上に努め、本学の質保証をめざす。

1 自己点検・評価について

内部質保証システム確立の1視点である「機関（組織）としての自己点検・評価」として、2011年度から新たに「自己点検・評価制度」を実施している。制度内容は、学内各組織が自らの判断と責任においてその諸活動について点検・評価を行い、「自己点検・評価シート」にまとめた自己点検・評価の結果を、全学大学評価会議が学内第三者機関として評価し、その評価結果を学内各組織にフィードバックするものである。

こうした自己点検・評価活動を通じて、明らかになった課題や改善点等を踏まえ、全学的・組織横断的な改善や各組織による自己改善を行い、教育研究をはじめとする大学諸活動の維持・向上に努めるとともに、その活動状況を社会に公表し、説明責任を果たしていく。

2013年度は、2年間の制度実施を踏まえて自己点検・評価シートに改善を加え、負担を軽減しながら、より実質的な自己点検・評価活動が行われるよう制度を推進していく。また、外部評価の導入について議論を進めていく。

2 教員活動自己点検について

大学活動の中心となる教育研究活動は、個々の教員の個性、専門性、独創性などによって支えられ、意義あるものとなっている。そのため、教員は自らの意思と責任で、自身の活動を点検し、教育研究活動等の維持・改善・向上に意欲的に取り組むことが必要である。

こうしたことから、本学では、内部質保証システム確立のもう1つの視点である「教員個人の諸活動に対する自己点検」として、2011年度に教員の自己評価を基本にした「教員活動自己点検」を試行的に実施し、2012年度以降

も毎年度必要な検証を行いながら継続的に実施をしていくことを決定している。

2013年度は、点検結果の活用について全学的なガイドラインを提示し、それを元に各教員、各組織での活用が進むよう取り組んでいく。また、2013年2月から本格稼働した「教員活動自己点検システム」を活用して、制度のさらなる効率的な運用を行い、教育研究活動等の維持・改善・向上に努めていく。

3 第三者による評価について

1 認証評価機関による評価

学校教育法の改正により、2004年度からすべての国公立大学は7年に1度（専門職大学院は5年に1度）、国によって認証された第三者評価機関による評価を受けることが義務づけられている。

本学では、自己点検・評価の信頼性と妥当性を高め、教育研究活動等の質を保証し、広く社会の理解と信頼を得る上で、こうした認証評価機関による評価は重要であると認識している。

大学は2006年度に、短期大学部は2010年度に大学基準協会による認証評価を受け、適合認定を受けた。2013年度は、大学と短期大学部が同時に認証評価を受審することから、相互に連携を図りながら、実地調査を中心とする調査に真摯に対応していく。また、点検・評価報告書にあげた課題についても、改善活動を継続していく。

法科大学院は、2009年度に大学基準協会による認証評価を受け、適合認定を受けた。次期の2014年度の実審に向け、教育をはじめとする諸活動について点検・評価を行い、改善活動に取り組むとともに受審資料の作成を進めていく。

2 格付けの取得・公表

本学校法人は学外機関による評価及び学外への情報開示の一の方策として、2005年4月に株式会社格付投資情報センター（R&I）から「AA-（21段階中上位4番目）」の格付けを取得し、以降毎年度、同様の格付けを維持してきた。

格付けの有効期間は1年間であることから、2013年度においても同社による調査を受け、格付けを継続して取得することとする。

また、格付け評価を広く社会に公表することにより、本法人の学校運営にかかる健全性や積極性等をアピールし、ステークホルダーをはじめとする社会全体からの支持基盤をより強固なものとするように努める。なお、評価については、前回は維持しながら、将来的にはより高い評価が得られるよう努めるとともに、評価の内容・事由等を本学校法人及び大学の運営にフィードバックし、有効に活用していくこととする。